

令和8年度 第5回益富地域会議 会議録

日 時：令和8年8月19日（水曜日）19時00分～20時15分

場 所：益富交流館 1階 多目的ホール

出席者：＜地域会議委員＞大石 茂則、桂田 章、加納 栄寿、岸和田 紀美代、
小松 幸司、柴田 栄作、鈴木 昭雄、鈴木 勲、
鈴木 雅子、中山 修、信川 浩二、橋本 卓美、
森本 泰崇、山田 武志
【欠席】岩下 晟也、梅村 哲平、櫻井 裕子
＜高橋支所＞ 前田支所長、太田副支所長、吉野担当長

＜内容＞

1 会長あいさつ

2 地域課題解決事業について（グループワーク）

前回のグループワークで出された取組アイデアについて実現可能性等を含めて各グループで深掘りする協議を行った。最後に各グループでまとめた意見等を全体で共有した。

【各グループで整理した意見等】※G=グループ

G	テーマ	意見等
1	仕組みづくり	・「仕組み」をよりイメージしやすい言葉として、「制度」「ツール」「システムづくり」などに置き換えて議論した。 ・人と人をつなぐ仕組みとして、「人材バンク」が最も分かりやすく有効との意見が出された。 ・人材バンクは、特技や知識を持つ人と、それを学びたい人や同じ趣味・関心を持つ人を結び付ける交流促進の仕組みとして整理した。 ・活用例として、部活動の外部指導員、子育て支援、フリーマーケット開催、公共交通ツアーなどが挙げられた。 ・募集に当たっては、「教える人」だけでなく「一緒に楽しむ人」として参加できる仕組みが重要との意見があった。 ・参加のハードルを上げず、個人が気軽に協力できる内容を募集することで、活動の広がりや実現可能性が高まるとの意見があった。 ・制度設計に当たっては、個人情報の取扱いに十分配慮する必要がある。

		・個人と個人をつなぐツールとして、人材バンクの導入を検討する方向性を共有した。
2	多世代交流・体験 ・学び・地域横断	・「トコつみき」と「寺子屋交流」は、双方実績と人気があり、実現可能性の高い取組であることを確認した。 ・「トコつみき」と「寺子屋」の2つを組み合わせて、寺子屋の中で「トコつみき」を実施する案が提案された。 ・期待される効果として、世代間交流の促進に加え、高齢者の健康増進や子どもの発想力向上が挙げられた。 ・運営に必要な専門的スキルは少なく、場所・道具・遊び方の説明があれば担い手を確保しやすい。 ・「トコつみき」の道具は旭地区の間伐材を活用して製作しており、準備には一定の期間が必要であることが共有された。 ・周知方法として、ポスティングや口コミが効果的であるとの意見があった。 ・情報発信グループによる効果的な周知方法の工夫も併せて検討することとした。
3	情報発信	・益富地区の魅力を効果的に発信する方法について意見交換を行った。 ・情報発信の対象は特定の層に限定せず、幅広い世代を含む全ての人とする方向性が示された。 ・地域住民自らが情報を発信する仕組みが望ましいとの意見があった。 ・ホームページ等の管理・運営を中学生のクラブ活動などが担うことで次世代（後輩等）へつなげるとの提案があった。 ・自治区主体の運営では担い手の負担感や後継者確保が課題となるため、運営方法の工夫が必要との意見があった。 ・発信内容についても、地域の魅力や伝えたい情報を整理する必要があることを確認した。 ・発信した情報を周知する方法として「くるみん・ますみん」と連携したグッズ等を作成し、二次元バーコードを掲載して発信情報を見てもらおう案が提案された。

4 事務連絡

(1) 次回の地域会議

令和8年度 第6回益富地域会議

- ・日時：令和8年9月16日（水）19時～
- ・場所：益富交流館1階 多目的ホール

(2) 五ヶ丘まちづくりニュースレター第13号

令和8年7月25日（土）に開催した「第3回五ヶ丘活性化  プロジェクト全体会」について報告した。

(3) 提言について

これまでの協議の内容を踏まえた提言書（案）を事務局で作成し、事前に全委員に送付する。同案に対する意見等を9/11（金）までにいただきたい旨連絡した。次回の会議では各委員からいただいた意見等を踏まえた提言書（案）を示して全体で最終確認したい旨説明した。

(4) 地域課題解決事業（高齢化に関する事業計画）進捗報告

令和7年5月15日に市長へ提言した益富地区の高齢化に関する提言に対する地域課題解決事業への取組に関する進捗を報告した。

以上